

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	99人	国語B	99人
② 算数A	99人	算数B	99人
③ 理科	99人		

5 留意事項

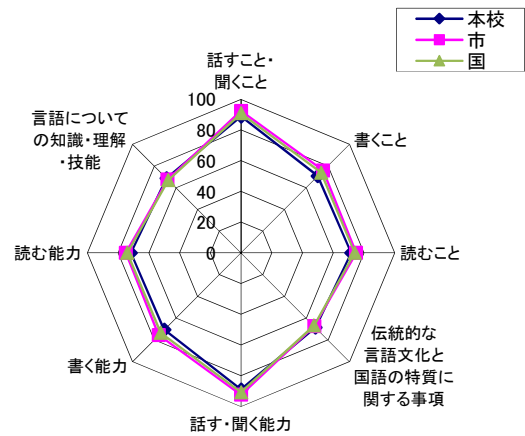
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

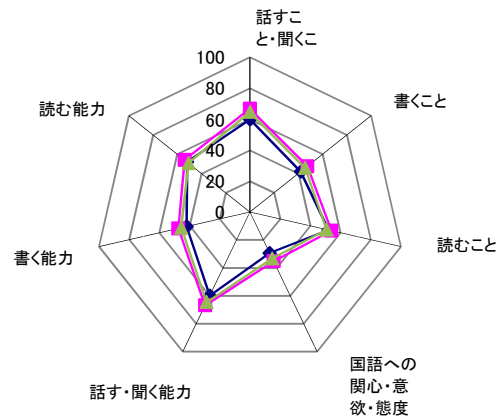
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	88.9	92.4	90.8
	書くこと	70.7	75.7	73.8
	読むこと	71.7	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.6	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	88.9	92.4	90.8
	書く能力	70.7	75.7	73.8
	読む能力	71.7	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	68.6	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	59.9	66.8	64.6
	書くこと	42.0	47.4	45.6
	読むこと	52.0	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	29.3	35.2	33.2
	話す・聞く能力	59.9	66.8	64.6
	書く能力	42.0	47.4	45.6
	読む能力	52.0	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

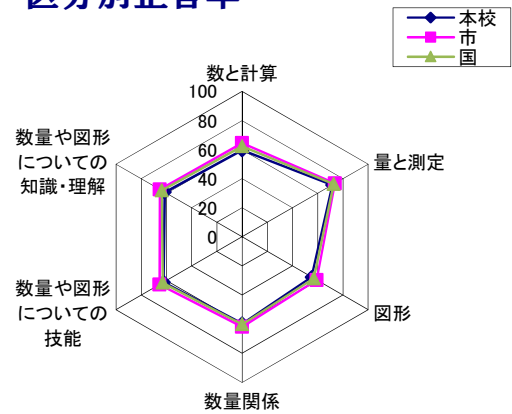
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、市や全国と比べて同程度である。 ●B問題の話し手の意図を捉えながら聞く問題の正答率は、市や全国と比べると約8ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、自分の考えとの共通点や相違点に注意しながら友達の発言を聞くことを励行する。 ・自己の考えを裏付ける資料を活用しながら説明する活動を経験させながら、論理的な表現ができるようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、市や全国と比べて同程度である。 ●B問題の目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えたり、内容の中心を明確にして詳しく書いたりする問題の正答率は、市や全国と比べると5～7ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じた文章の種類を整理し、書き方のポイントを押さえて書く指導を継続していく。 ・調べたことの中から自分が伝えたい事柄を選んで、内容の中心を明確にして書く活動を授業中に取り入れる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、市や全国と比べて同程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書や音読を励行し、長文読解に慣れるようにする。 ・物語文では、登場人物の発言や心情を表す情景描写に注目させたり、登場人物の関係を図に表したりさせることで、登場人物の心情の変化などを正確に読み取る力を伸ばす。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、市や全国と比べて同程度である。 ○漢字を文の中で正しく書く問題では、市や全国と比べておおむね正答率が高くなっている。 ●文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書く問題の正答率は、市と比べると約7ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を書くことについては、定期的に漢字テストを行って意欲を高めながら、日々の漢字練習に取り組みながら着実な定着を図る。 ・基本的な言語事項については、文章を書いた後に、主語と述語に線を引かせるなどして注目させ、つながりが合う文になるよう指導する。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

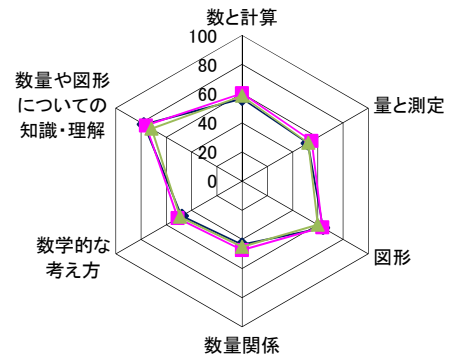
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	59.6	64.5	62.3
	量と測定	71.5	73.6	72.7
	図形	55.2	59.1	56.9
	数量関係	59.6	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	62.4	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	61.5	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	56.6	60.2	58.4
	量と測定	52.0	55.0	52.4
	図形	64.1	63.5	59.9
	数量関係	43.6	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	47.8	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	77.8	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

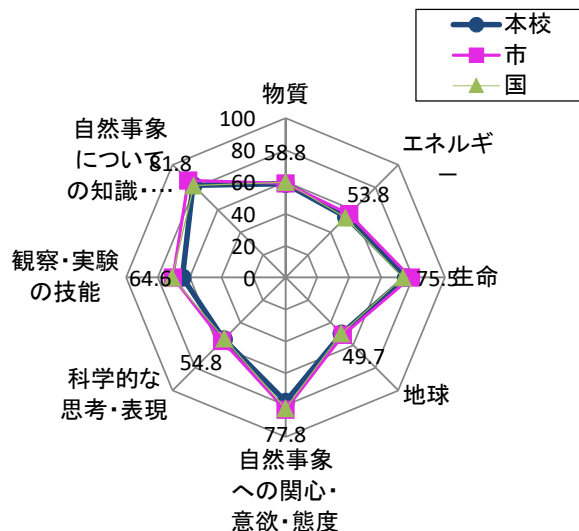
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、算数A、Bともに全国平均とほぼ同程度である。 ○A問題の数量の関係を数直線上に表す問題の正答率は、71.7%で全国と比べ5ポイント高くなっている。 ●A問題の小数の除法の意味を理解し、式と問題を結び付ける問題では、正答率が31.3%で市や全国よりも10ポイント近く低くなっている。 ●B問題の玉入れゲームの計画から指定された時間に近いものを表を整理して求める問題では、45.5%で全国と比べては同程度だが、市より5ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・割合の問題等で数直線に表す機会を多く設定してきたので、数量関係を数直線に表すことはできるようになってきた。今後は、式と問題を結び付け、式の意味を友達に分かりやすく伝えるなど言葉を使って表現できるような場を設定していく。 ・日常生活の事象を解決するために、必要な情報を数学的に処理したり、説明したりする活動を意図的に取り入れていく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、算数A、Bともに全国平均とほぼ同程度である。 ○A問題の180°の角の大きさの正答率は、97%と良く、市や全国と比べても約2ポイント高くなっている。 ●A問題の単位量当たりの大きさを求める問題の正答率は、43.4%と低く、市や全国と比べても5ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位量当たりの問題については、混み具合が視覚的に捉えやすいように工夫して図に表現させ、その図と式を関連付けながら、混み具合を求める式を理解できるように指導していく。 ・単位量当たりの問題が身近な問題として考えられるように、様々な場面で関連させていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、算数A、Bともに全国平均とほぼ同程度である。 ○B問題の条件に合う図形を選ぶ問題の正答率は、77.8%で市よりも6ポイント高くなっている。 ●A問題の円周率を求める式の正答率は、37.4%で全国よりも8ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を構成する活動を通して、それぞれの図形の性質の理解を深めていくことができるようにする。 ・円周や円周率など、算数的な言葉の意味を正しく理解できるように、作図をしながら意識して使わせたり、練習問題を通し定着したりできるようにする。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、算数A、Bともに全国平均とほぼ同程度である。 ●B問題の棒グラフや帯グラフから読み取ったことを文章にまとめる問題では、正答率が18.2%で市や全国より5～7ポイント低くなっている。 ●B問題のメモとグラフを関連付け着眼していることを記述する問題の正答率は、市や全国とは同程度だが22.2%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの数値や割合が何を表しているのかを細かく読み取る活動や複数のグラフから特徴を考え表現する活動などを多く取り入れ、グラフの指導の充実を図っていく。 ・社会科や理科など他教科との関連を図りながら、必要なデータをグラフに表したり、グラフを読み取ったりして、統計的な力を養っていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	58.8	59.0	59.8
	エネルギー	53.8	56.4	53.1
	生命	75.5	78.6	73.6
	地球	49.7	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	77.8	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	54.8	56.1	54.1
	観察・実験の技能	64.6	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	81.8	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、58.8%で市や全国と同程度である。 ○水道水と海水を区別するために、2つの実験結果から判断する問題の正答率は、88.9%と良好で、市や全国と同程度であった。 ○食塩を水に溶かした場合の全体の重さを問う問題の正答率は47.5%で全国と比べ4.8ポイント、市と比べ6.4ポイント高くなっている。 ●食塩水を熱したときの蒸発実験についてから結論を導き記述する問題の正答率は34.3%で、市や全国と同程度ではあるものの課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な実験方法と、どうしてそのように行うのかなど、実験の意味を理解させる。 ・実験の結果から考えられる考察について話し合う時間を十分にもつとともに、自然現象との関連についても触れるようにする。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、77.8%で市や全国と比べ5ポイント程度低くなっている。 ○太陽の1日の位置の変化について問う問題の正答率は52.5%で、市と比べ4.2ポイント、全国と比べ10.6ポイント高くなっている。 ●回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から結論を導く問題の正答率は53.5%で、市と比べ7.4ポイント、全国と比べ5.9ポイント低くなっている。 ●乾電池の向きを変えると電流の向きが変わることを問う問題の正答率は、57.6%で全国と比べ5.9ポイント、市と比べ8.2ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験技能を高めるとともに、電気の流れについて検流計やモータの回り方など様々な角度から分析したり考察したりする機会を設けるようにする。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、75.5%で市や全国と同程度である。 ○腕が曲がる仕組みを模型を使って説明する問題の正答率は64.6%で全国と比べ8ポイント高くなっている。 ●人と鳥の骨格を調べた結果から考察する問題の正答率は71.7%で、全国と比べ4.5ポイント、市と比べ6.7ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の骨格と他の動物の骨格の相違点などについて、学習内容を発展させるように、自主学習などにつなげるようにしていく。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は、49.7%で市や全国と同程度である。 ●流れる水の働きについて水の量と削られ方の実験結果を考察する問題の正答率は、全国や市と同程度ではあるが20.2%と課題が見られる。 ●流れる水の働きで「たい積」という言葉の意味を問う問題の正答率が75.8%で、全国や市と比べ8ポイント程度低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な言葉や概念の理解の定着を図る。生活の中で見られる自然現象について興味をもたせるために、普段から話題にするように心がける。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自主学習に関して、「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的回答の割合が78.7%で全国と比べ11.1ポイント高く、県と比べて7ポイント高くなっている。また「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」では81.8%で、全国と比べ19.2ポイント、県と比べて9.9ポイント高い。さらに「家で予習・復習やテスト勉強など自学自習において、教科書を使いながら学習をしているか」では、82.9%で、全国と比べ13ポイント、県と比べ6.4ポイント高くなっている。これらの結果は、全校体制で自主学習を進めてきた成果と考えられる。

○「地域の行事に参加していますか」の問いに対する肯定的回答の割合は70.7%で、全国と比べ8ポイント、県と比べ3ポイント高くなっている。また「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」においても、72.8%と高かった。地域に対する興味・関心の高さがうかがえる。本校で毎年行われている、よりよい地域づくりのための話し合いの場である「雀央サミット」を生かして実践力に結びついていることも一つの成果であると考えられる。今後も地域に積極的に関わる態度を育て活性化に繋げていきたい。

○「算数の問題の解き方が分からない時、諦めずにいろいろな方法を考えている」の肯定的回答の割合が86.9%で全国と比べ8.5ポイント、県と比べ6.7ポイント高かった。同様に「算数の授業で学習したことは将来、社会に出た時に役に立つと思うか」が97.9%。「算数の授業で公式やきまりを習う時、そのわけを理解するようにしている」が89.9%。「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」が89.9%で、いずれも県や全国と比べて高くなっている。学力向上を目指して、算数を中心に研究してきた成果が表れていると思われる。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか」の肯定的回答の割合は、84.5%で、全国と比べ7.8ポイント県と比べ4ポイント高くなっている。これも、学力向上を目指して研究してきた成果と思われる。

●平日の学習時間に関して、目標とする1時間以上取り組んでいる児童の割合が59.7%と低く、さらに30分に満たない割合が12.1%と全国や県と比べて5~7ポイント高くなっている。学習の習慣化をさらに進めていく必要がある。

●また、平日の読書の時間に関しても全く読まない児童の割合が33.3%と全国や県と比べ15ポイント程度多くなっている。近くに図書館がある利点を強調するとともに、時間の使い方を指導していきたい。

●「新聞を読んでいますか」の問いに対して、ほとんど読まないと回答した割合が63.6%と高かった。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思うか」全国や県と同程度ではあるが、59.6%と低い「理科の授業で自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」42.4%と低い全国と比べ12.1ポイント、県と比べ7.9ポイント低い。

宇都宮市立雀宮中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
考えを説明したり、書いた りする力を伸ばす取り組み	<p>○各教科の授業や日々の実践の中で、自分の考えを書いたり、伝え合ったりする活動を意図的に位置付ける。</p> <p>○正答率が低かった問題に関する学習内容について、授業研究会を実施する。</p> <p>○2月、3月に、過去の調査問題を朝の学習や授業で実施する。(3年~5年)</p>	<p>○調査問題の結果から、自分の考えを説明する問題の正答率に課題が見られた。</p> <p>○質問紙において次の項目に課題が見られた。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」が64.6%(4年) 46.0%(5年) 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」が51.9%(4年) 55.6%(5年) 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思うか」59.6%(6年) 「理科の授業で自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」42.4%(6年)</p>
長文読解力の向上	<p>○下級生の教室に市立図書館から本を借用し、学級図書室を充実させる。</p> <p>○学校図書室を中心に年間を通して、読書を勧める取り組みを実践する。</p> <p>○調査問題から長文の問題を授業で扱うようにする。(3年以上)</p> <p>○国語の授業において速読の練習をする。</p>	<p>○長文の問題文になると正答率が低くなる傾向が見られた。</p>

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>○質問紙において「算数で学習したことを生活の中で活用できないかと考えている」が、5年で59.7%（県と比べ12.2ポイント低い）、4年で64.6%（県と比べ7.3ポイント低い）と低かった。</p>	<p>学習内容と生活を関連付けて考えられるための指導の工夫</p>	<p>○各教科において、学習内容と実生活との関連性について触れるようにする。特に算数において、生活に関連した問題を重視する。</p>